

熱環境の測定のレポートについて

初めてのレポートであったためか、全体的にあまり良い出来映えではありませんでした。以下の点などに気を付けて、今後、更に良いレポート作成に向けて頑張ってください。

- 1) 小見出しのスタイル、図や表のスタイルをはじめ全体のスタイルが最初と最後で異なっている人がいましたが、できるだけ統一させましょう。
- 2) ワードのオートフォーマット（メニューバーの「書式」からできます。）は便利な場合もありますが、不必要に（勝手に）間隔を空ける場合もあります。必要に応じて使い分けのようにしましょう。
- 3) 気温と湿度の評価を行ってみましたか？教科書や図書館の資料を調べてみましたか？レポート作成自体に時間がかかるとは思いますが、できるだけいろいろな資料をあたってみましょう。
- 4) グラフはできるだけ見やすく。単位を間違えないように。
- 5) 表や図のタイトルは、そのタイトルのみを読んで、表や図の内容がわかるようなタイトルで、かつ簡潔なものを付けましょう。
- 6) 実験のレポートを読んで、別の人を追試できるように書きましょう。説明が足りない人もいました。また、できるだけ読みやすいレポートするように心がけましょう。
- 7) 簡単なので、今回の実験でも用いましたが、不快指数は、基本的には、夏の環境を評価するために用いられることが多い指標です。しかも、気温と湿度のみの影響を勘案する指標です。SET*やPMVなどを用いると、基本的に温熱環境の6要素全ての影響を考慮して、温熱環境を評価することができます。
- 8) 測定を行った場所、天気など、基本的な情報はきちんと書き込みましょう。
- 9) 同じレポートの中で、「計測」と言ったり、「測定」と言ったりしないで、できるだけ統一しましょう。
- 10) レポートを書く際には、いわゆる「書き言葉」を用いましょう。「話し言葉」や方言はできるだけ避けましょう。
- 11) 結果を基に、何故そのような結果が出たのか？どのように考えれば説明がつくのか？を考えてみましょう。
- 12) アンケート（主観申告）結果を載せていない人がいました。書き込みましょう。
- 13) 表だけではなく、効果的にグラフを作成すれば、わかりやすいレポートが作成できると思います。いろいろなグラフを作成してみましょう。
- 14) 実験を行っている時の周囲の様子も重要です。メモを取っておきましょう。
- 15) 意味が分かりにくい文章になっている人がいました。できるだけ注意しましょう。
- 16) 考察については、もう少し筋道を立てて説明した方がよいのでは、と思える人が何人かいました。また、もう一步踏み込んで推測したり、疑問点を調べたりすると更に良いレポートになります。